

地区中文祭 出品作品介绍

学校だより

和

第 23 号
三和中学校
発行 與島 康仁



文芸・美術・書道・技術家庭

詩 その犬

三年 平田永愛

どこかで犬が鳴いている
あの犬は
何に向かって
鳴いているのだろうか

自身にだろうか
今日の一日にだろうか
人間にだろうか
犬にだろうか

見えない何かや
見えたはずの何かだろうか
はたまた

泣いているのだろうか
何に向かって
泣いているのだろうか

この世の犬の不条理にだろうか
人間の理不尽さにだろうか
人間であるが
犬であるが
変えられない何かや
変えられたはずの何かを思うの
だろうか

私はうらやましい
どんな理由があろうとも
なっている犬が
うらやましい

わたしもあんなふうに大声で

ワウオーン ワウオーン

どこかで犬がいない
わたしはその犬に想いをはせ
る
その犬をわたしは知らない
わたしもその犬を知らない

昼下がりのブラックホ
ール
一年 金城季里

私はいつも 旅をする

仲間とともに出発するのに
吸い込まれるのは 私一人
出発時間はいつも変わらず
私の時間だけ 止まってしま
う

声は音に 雑音に
そして静かに沈黙す

ふわふわ ゆらゆら
身体の内のが揺らめき
たちまち私は旅に出る
大変せまく、きゆうくつな
箱の中から飛び出して
私は旅を堪能する

鉛を包んだ木材が
鼻の先をかすめても
優しい時間が 私の心を包み
込む

今日はここが私の旅先

暖かい色 冷たい色
またたき ひらめき
光と色が あふれている

なぜか皆は
「早く戻れ」
と私を急かすが
なかなかここから
抜けがたい

それでも終点は近づいて
臆病な私は 焦り出す
でもまあ

駅に着いたなら
だれかが 明かりを渡すだろ
う

ああ、到着の鐘が鳴る
それじゃあ、またね ブラ
ックホール

短歌 夏の花に思ふ

三年 中村真麻

アマリリス 虫を誘う 不思議さに
人間だとして 花に酔いしれ

向日葵と 背比べした あの頃
私は今も 戻りたい

しらゆりは 今も私の 胸にある
平和の炎 礎を照らす

俳句 夏 家族の肖像

三年 新里友唯

弟の 眉間へ定めた 水鉄砲

暑き日も ひやっと涼しい

姉の運転

休日も 休むひまなく

草刈る父

夏

二年 玉城琉心

熱帯夜 室外機の音

途切れずに

扇風機 使用期限が

切れている

夏畑 緑の星を かごに入れ

夏休み

一年 澤田羽生

サンルーフ 透かして見ゆる
天の川

ふるさとの 緑が映る
水溜まり

夏休み ほこり被った
教科書たち

作文の部

三年 平田永愛

中村真麻

二年 玉城琉心

一年 澤田羽生

金城季里

三年 新里友唯

一年 神里はな

書道の部

三年 玉城真生

三年 福元友梨

仲里美穂

与那城せな

二年 久保田咲

伊敷愛

※書道、美術作品は次号で紹介